



「大阪ものづくり優良企業賞 2024」受賞企業への 豊田政男審査委員長メッセージ

『大阪ものづくり優良企業賞』は、今回で16回目を迎えることができました。今回は審査の結果、57社を「優良企業賞」に選定し、そのうち5社については併せて「知的財産部門賞」としました。

また、書面審査で特に評価の高かった企業を対象に、企業訪問とプレゼンテーションによる最終審査を行い、「最優秀企業賞」1社、「技術力部門賞」1社、「夢・未来・ORIST賞（(地独)大阪産業技術研究所理事長賞）」1社、及び「審査委員特別賞」2社を選定しました。

最終審査においては、金属製品製造業や生産用機械器具製造業の企業が表彰対象候補としてノミネートされましたが、最終的に審査委員全員の合意により、多様な金属めっき加工技術や高精度な部分めっき技術などにより様々な顧客からの要望に応えるとともに、企業経営において独自の経営理念のもとで新たな挑戦にも意欲的に取り組み、また最新の排水処理システムにより環境にも配慮する企業1社を「最優秀企業賞」としました。

また、高度な「貼る」「剥がす」の技術などを生かして様々な製品に必要とされる高度なフィルム転写技術などを柱とした製造設備の開発し、その高い技術力で多くの企業の課題である省人化などへの貢献も期待できる1社を「技術力部門賞」としました。

技術に未来を感じる企業を賞する「夢・未来・ORIST賞」には、金属プレス金型で今後の展望を見据えながら産学連携で得た知見をもとに顧客ニーズに意欲的に応える企業を1社選定しました。

さらに、長年培われてきた金属加工プレス技術で日々の改善活動により加工時間とコストを縮減し、取引先と互惠関係を築いた企業と、インサートを回転させ、少ない加圧力でリベットの加工をするリベッティング・マシンを製造し高いシェアを獲得している企業の2社を「審査委員特別賞」に選定しました。

今回の審査を通じて、昨今のエネルギーや原材料価格の高騰などの経営環境に加えて、人材確保、DX、脱炭素などの様々な課題に直面する中、これまでの経験で培った高い技術の応用や創意工夫により新しい展開に挑む大阪ものづくり中小企業の姿勢を見て、「大阪のものづくり」企業の持つ卓越した技術力とそれを活用して新たな展望を切り開く力強い姿を感じることができました。

16回目を迎えた当顕彰事業の受賞企業数は1,005社となり、毎年多くの企業を選定されていることは、大阪府内に優秀で意欲の高い中小企業が数多く存在し活躍していることの証でもあり、本賞の審査の意義を改めて感じることができました。

今回受賞され各企業の皆さまには、「大阪のものづくり看板企業（匠企業）」として、その持てる技術力や企業力をより一層発揮され、更に活躍されることを確信するとともに、心より祝意と敬意を表します。

大阪中小企業顕彰事業審査委員会 審査委員長 豊田 政男

(大阪大学名誉教授)